



2018年度 経営説明会

第5次中期経営計画の進捗状況と今後の方針

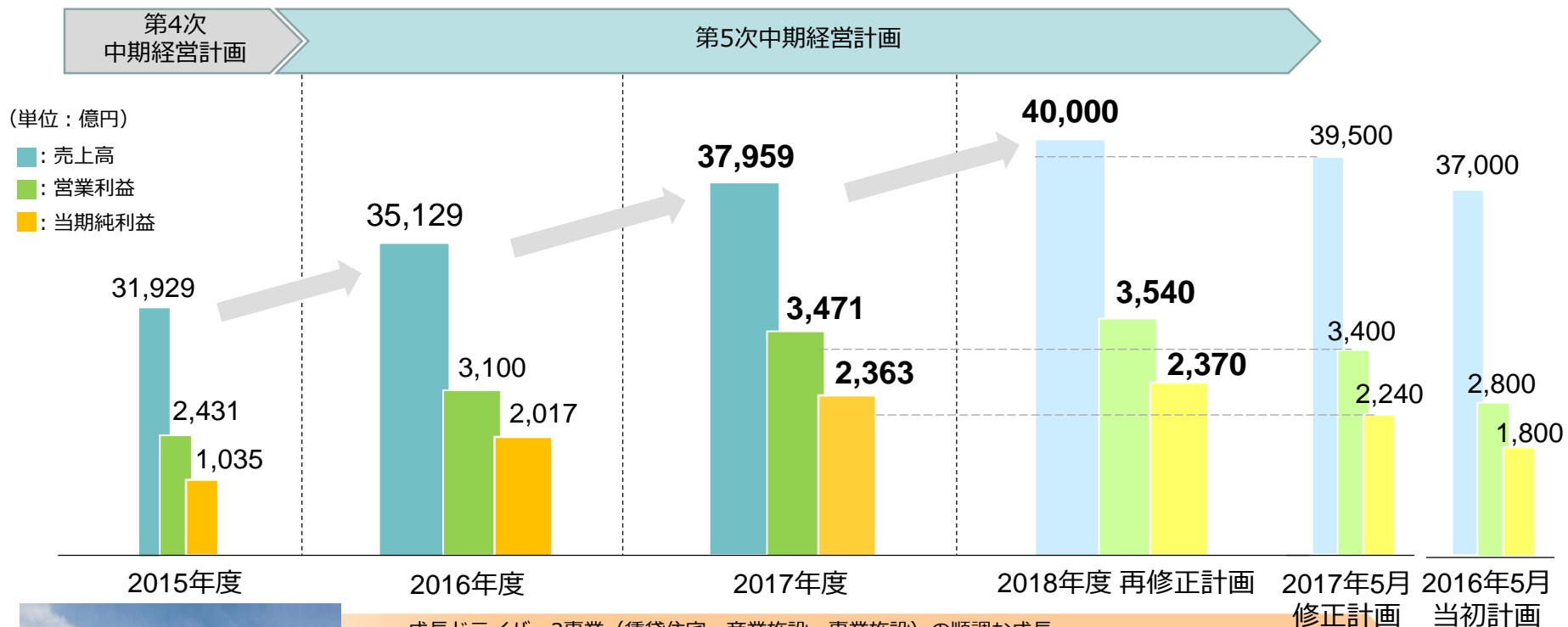
2018年5月15日

大和ハウス工業株式会社

証券コード：1925（東証1）

第5次中期経営計画の進捗状況

2017年5月に上方修正した第5次中計の最終年度の利益目標を2年目で達成。
今年度、再度業績予想を上方修正し、さらなる成長を目指す。



大型マルチテナント型物流施設「DPL川崎夜光」(神奈川県)



米国戸建住宅事業「スタンレー・マーチン社」

成長ドライバー3事業（賃貸住宅・商業施設・事業施設）の順調な成長

開発物件売却の増加

海外事業の拡大

米スタンレー・マーチン社のグループ入り

豪ローソン社のグループ入り

都市部・ファミリー向けを意識した物件供給により売上を拡大するとともに、入居率は高水準を維持。今後は豊富な商品バリエーションで業績を拡大。



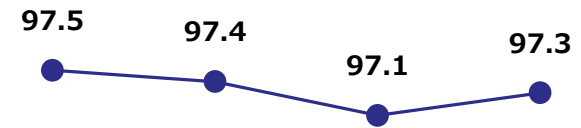
3階建賃貸住宅（外観）



ファミリータイプ（内観）

■ 入居率の推移

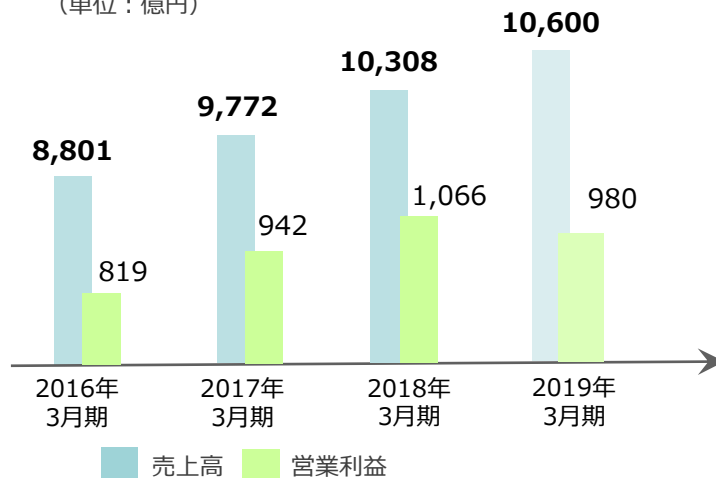
（単位：％）



2015年3月末 2016年3月末 2017年3月末 2018年3月末

■ 業績の推移

（単位：億円）



■ 今期の戦略

- ✓ 商品バリエーションの拡大



中高層賃貸住宅



併用賃貸住宅



寮・社宅、官舎

店舗以外の様々な用途の物件開発に取り組み業績を拡大。
 今後も商業施設の開発用途を増やし、さらに業績を伸ばす。

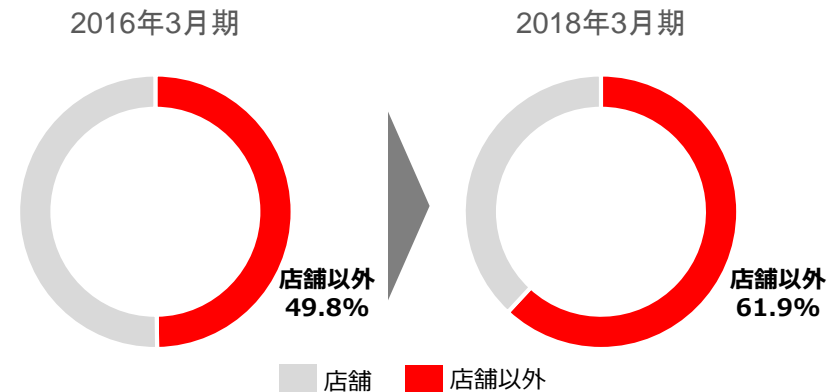


店舗付レジデンス
 「ドミールCity門前仲町」



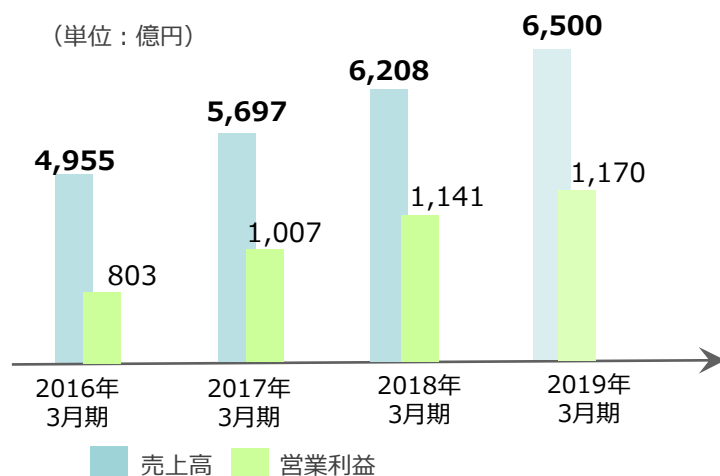
ホテル「ダイワロイヤルホテルグランデ京都」

■ 店舗以外の請負比率（受注金額ベース）



■ 業績の推移

(単位：億円)



■ 今期の戦略

- ✓ テナント企業のバリエーション拡大
 (複合店舗、医療・介護、保育施設など)
- ✓ 大型物件の拡大



医療介護施設



大型複合施設

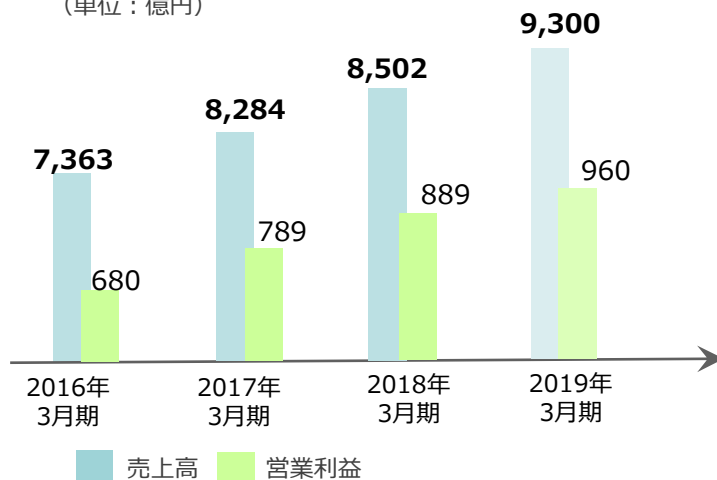
BTS型・マルチテナント型共に開発を加速して業績を拡大。
 今後は先端技術を活用し、さらなる施設の高機能化・効率化に取り組む。



マルチテナント型物流施設「DPL流山（千葉県）」

■ 業績の推移

(単位：億円)



■ 今期の戦略

- ✓ 物流施設の高機能化



AIを搭載した自動搬送物流ロボット「Butler®（バトラー）」
 (GROUND社と資本提携)



物流施設で働く従業員向けの保育施設
 (ママスクエアと資本提携)



AI・IoT・ロボットを活用し、新しいシェアリングモデルを
 物流施設内で構築したショールーム
 「Intelligent Logistics Center PROTO」(DPL市川)

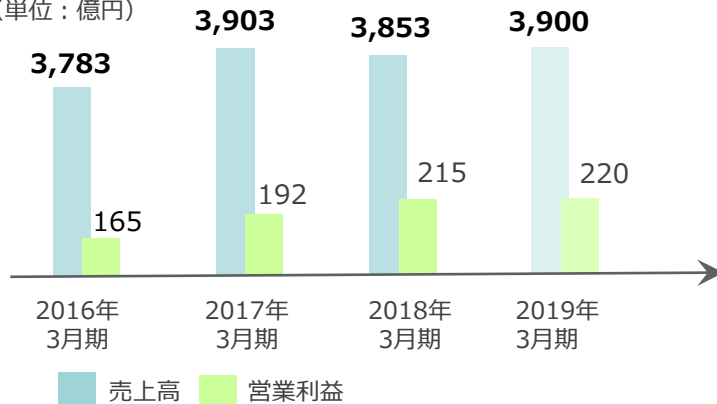
xevoΣの主力商品化による1棟単価向上や効率化による原価改善により営業利益が3期連続で改善。今後は併用住宅提案を強化し、3階建以上商品の販売拡大を目指す。



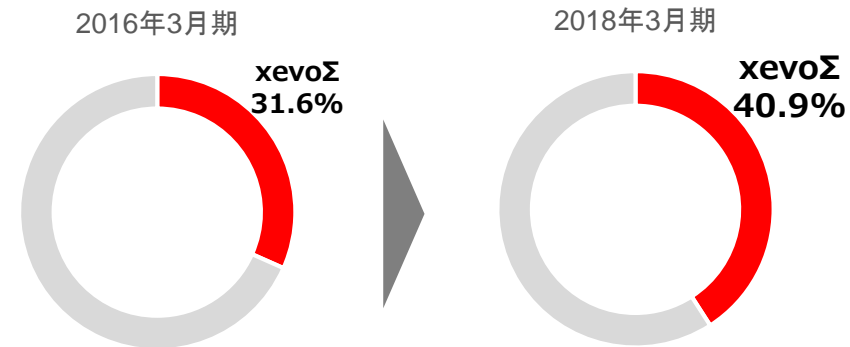
戸建住宅主力商品「xevoΣ」

■ 業績の推移

(単位：億円)

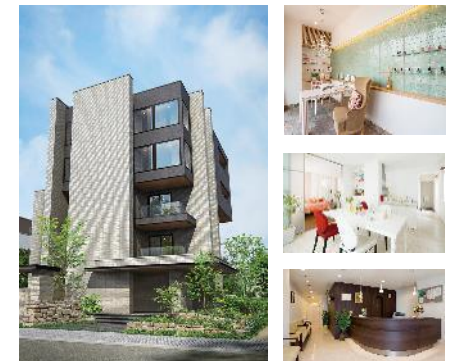


■ 主力商品「xevoΣ」比率の拡大 (受注棟数ベース)



■ 今期の戦略

- ✓ 高価格帯マーケットの攻略
- ✓ 併用住宅提案の強化



併用住宅提案 (店舗・賃貸・医院)

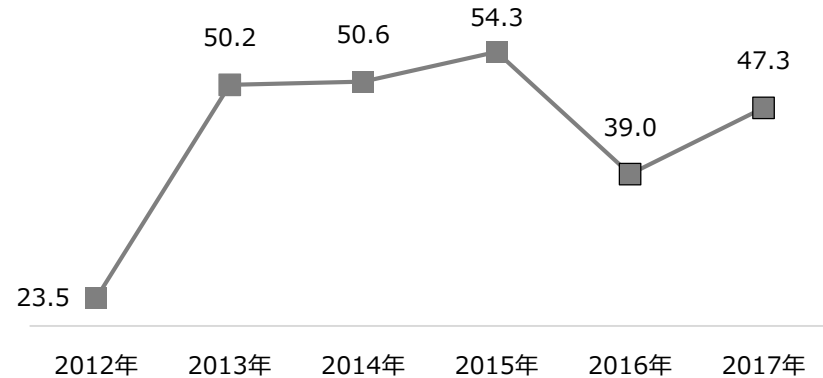
これまで強化してきた首都圏に加えて、近畿圏でも供給を強化する。
市場の多様化ニーズに応じた物件供給を推進する。



緑豊かな住環境と都心の利便性を兼ね備えた
「プレミスト有明ガーデンズ（東京都）」

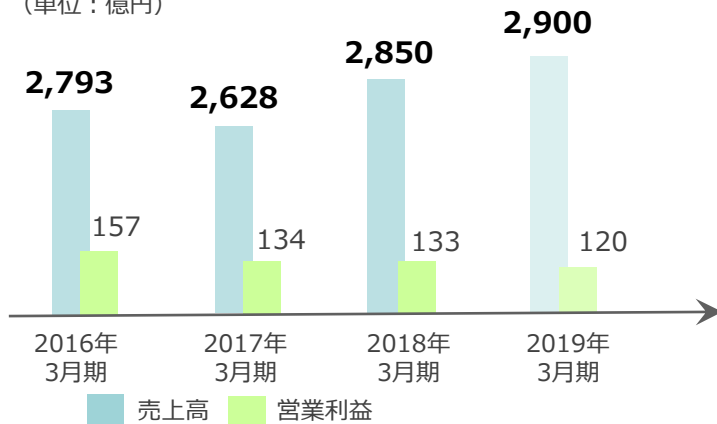
■ 首都圏供給比率

(単位：%)



■ 業績の推移

(単位：億円)



■ 今期の戦略

- ✓ 首都圏・近畿圏での供給拡大
- ✓ シニア向け等多様なニーズに対応した物件・サービスを提供



アクティブシニア向けマンション
「グランコスモ武蔵浦和（埼玉県）」



「プレミスト鶴見横堤（大阪府）」

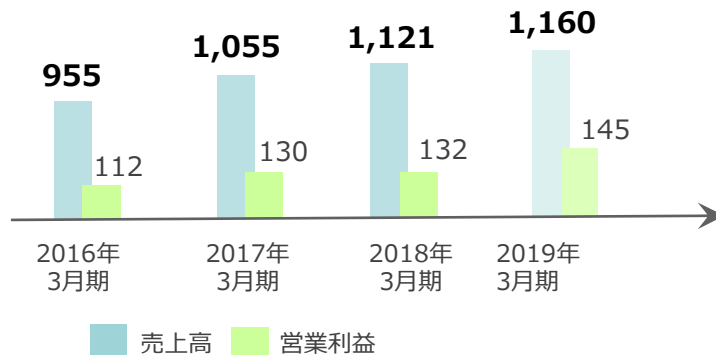
リフォーム事業を拡大するとともに、新たなブランド「Livness」を立ち上げ、グループ全体で横断的に事業体制を強化。



「オリコン顧客満足度ランキング」の「大型リフォーム」部門において2年連続1位を獲得（2016年・2017年）

■ 業績の推移

(単位：億円)



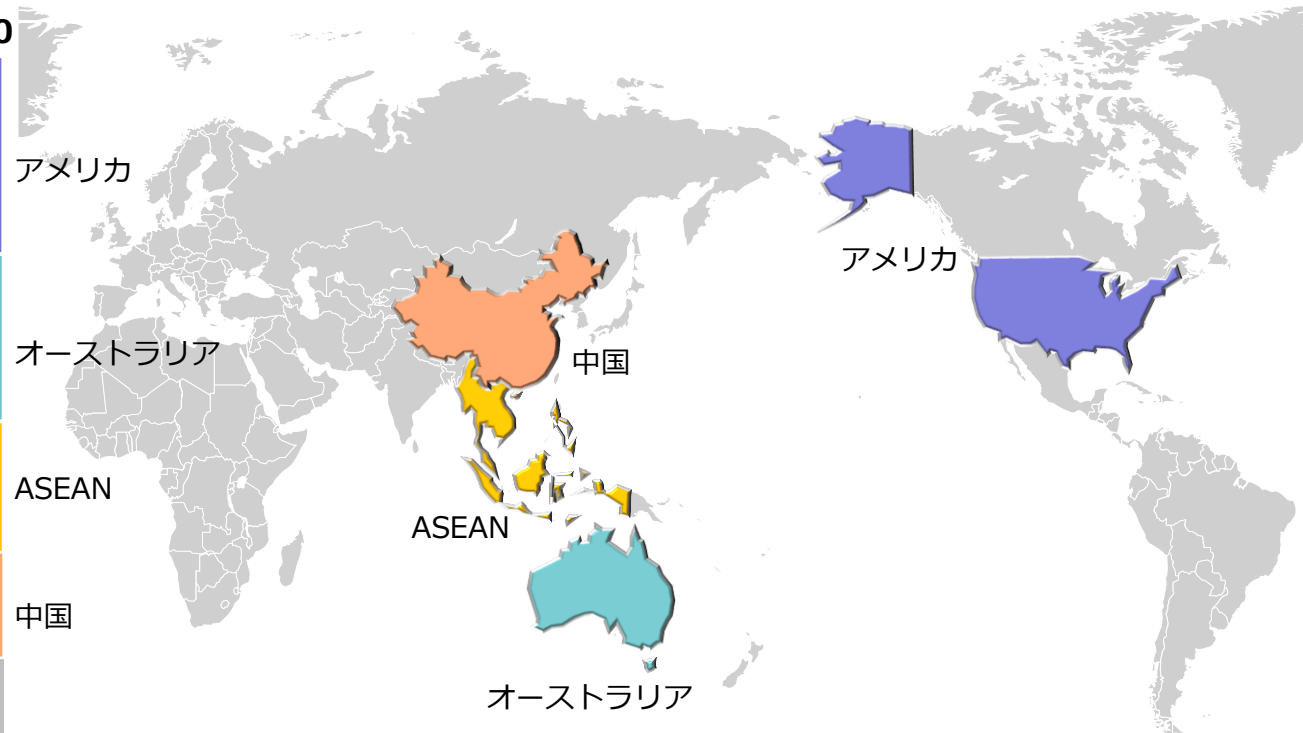
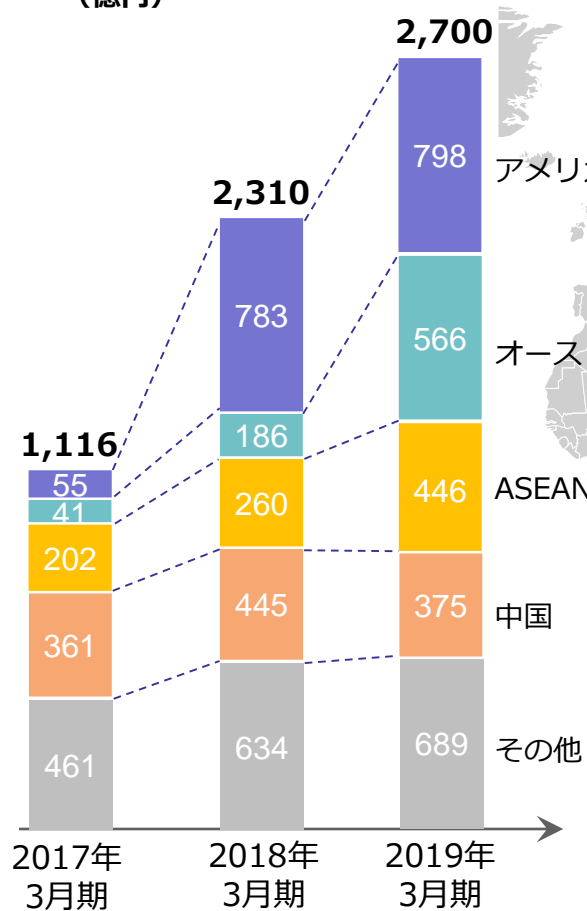
■ 新しい中古住宅ブランドの立ち上げ



海外事業はローソングループがグループ入りした豪州やASEANで事業規模を拡大。売上高は2,700億円を目指す。

■ 海外事業売上高

(億円)



注) 売上高の合計には調整値を含む

過去の進捗を鑑み、3年間の投資計画を9,000億円から1兆円に拡大し、事業施設、海外への投資を更に伸ばす。

■ 不動産開発投資の進捗状況

(単位：億円)

	当初 投資計画	2ヶ年 累計実績	進捗率	修正 投資計画
賃貸住宅	1,000	347	34.7%	500
商業施設	1,400	1,006	71.9%	1,500
事業施設	3,600	2,815	78.2%	4,000
海外	1,000	844	84.4%	1,200
不動産計	7,000	5,013	71.6%	7,200
設備投資	1,500	1,502	100.1%	2,000
M&A	500	365	73.0%	800
投資計	9,000	6,881	76.5%	10,000



当社最大床面積のマルチテナント型物流施設
「DPL坂戸（埼玉県）」



中国では6年ぶりとなる大型マンション開発
「南通プロジェクト（江蘇省）」

アコモデーション事業ではインバウンド需要を背景にホテル出店を拡大。
 パーキング事業ではグループ全体で運営管理台数を順調に伸ばす。

■ 新しいホテルブランドの立ち上げ

都市型ホテル



DAIWA ROYAL HOTEL CITY

アパートメントホテル



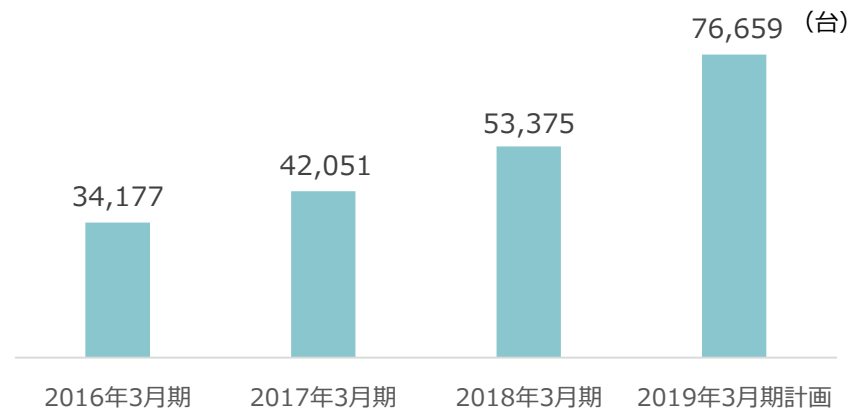
卍 APARTMENT HOTEL MIMARU

ファミリー向けホテル



La'gent Hotel Tokyo Bay

■ パーキング事業 運営管理台数の推移



注) 2018年3月期までは大和ハウスパーキング、大和リースの数値。
 2019年3月期計画にはテクニカル電子を含む。



大和ハウスパーキング「大阪マルビル」



大和リース「Dパーキング前橋駅北口」

「建設現場の休日増加」、「ロボットスーツの工場導入」など労働環境の改善に向けた取り組みをさらに推進。

2017年度

2018年度

長時間労働の抑制

- 正月3が日の一斉休業

- 建設現場の休日増加

- 「RPA」※1の導入拡大

✓ 4週5休（年間休日102日）の実施

2017年度 2018年度 2021年度



建設現場の4週8休に向けたロードマップ

- ロボットスーツ「HAL®」※2を全工場に導入
- 耐火被覆吹付ロボットの開発



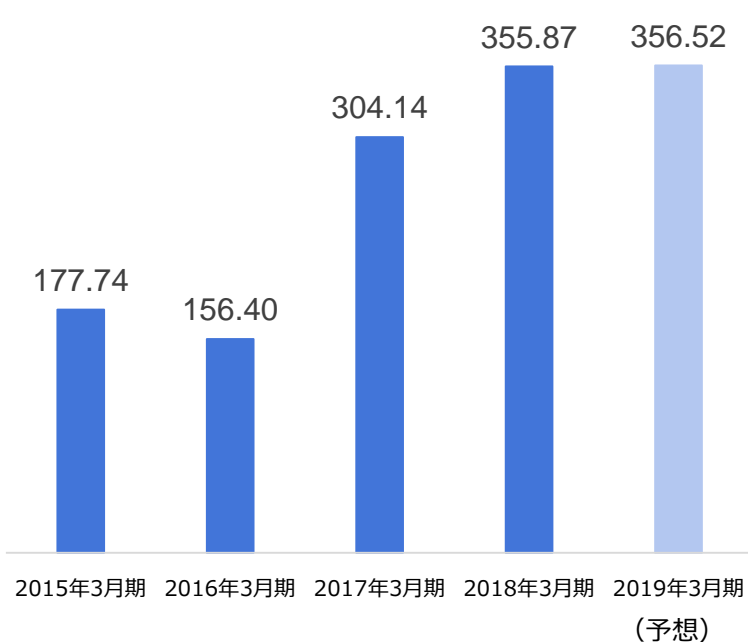
職場環境の整備

※1. Robotic Process Automationの略。
パソコンを使った作業をソフトウェアで自動化すること。
※2. HAL®はCYBERDYNE株式会社の登録商標です。

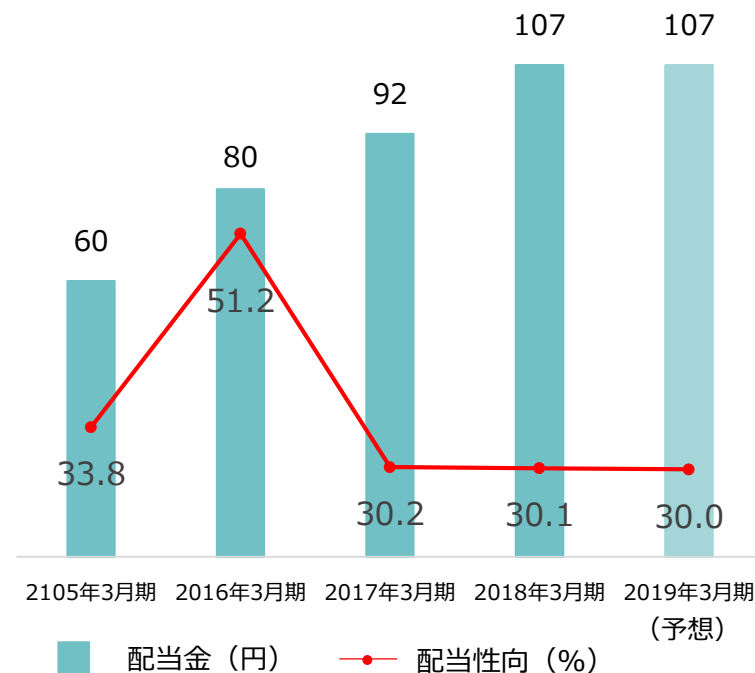
成長へ向けた積極的な投資を行うことで、1株当たりの利益の増大による株主価値の向上を図る。配当性向は30%以上とし、業績に連動した利益還元を行うとともに、安定的な配当の増加に努める。

■ 1株当たり当期純利益の推移

(円)



■ 配当金・配当性向の推移





業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

今後、実際の業績は、金融市場の動向、経済の状況、競合の状況や地価の変動の他、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

(本資料中の画像について)

本資料中の画像には、実物の写真のほか完成イメージ図が使用されています。